

OPAC 通信

Okinawa
Peace Assistance
Center



特定非営利活動法人
沖縄平和協力センター (OPAC)
沖縄県那覇市久米 1-5-18 稲福ビル 201-B
TEL (098) 866-4635 / FAX (098) 866-4638
www.opac.or.jp
(<http://blog.livedoor.jp/opac/>)

OPAC のロゴマーク
沖縄を飛び出し世界の
現場で活躍することを
イメージしました。

Transforming Okinawa's Heart into Action

2011. September

第3回 OPAC防災講座開催

3月11日、多くの日本人が絶望的な悲壮感に襲われ、被災地のニュースに涙し、何もできないことへの苛立ちと無力感に立ち尽くしました。9月を迎え、東日本大震災発生から半年が経過し、突如として起こる災害への不安を心の片隅に抱きながらも、私たちは日々の生活を営んでいます。しかし、いまだ多くの方々の行方が分からず、また、福島県での原発事故は収束がつかないまま、多くの方が避難生活を余儀なくされています。あらためて、亡くなられた方々のご冥福と、被災された方々が一日も早く日常の生活を取り戻せることを心よりお祈り申し上げます。

9月30日、OPACでは、沖縄に駐屯する自衛隊として被災地へ派遣され支援活動に従事した高橋健一 2等陸佐、金城兵啓 2等空佐をゲストスピーカーにお招きし、第3回 OPAC 防災講座～東日本大震災から学ぶ～を開催しました。



第3回 OPAC 防災講座「自衛隊による復旧・復興支援活動」

「自衛隊による復旧・復興支援活動」をテーマに、高橋氏、金城氏は、それぞれ陸上自衛隊と航空自衛隊の救援・支援任務を概説。また、お二人が主に従事された炊き出しや給水支援、入浴支援などの

生活支援活動について、現地での写真を交えながら報告しました。活動内容や使用装備、直面した課題などのお話から、災害派遣の現場で自衛隊に出来ること、あるいは自衛隊だからこそ可能なことが示されると同時に、現地で視界に広がる津波被害の大きさに圧倒されながらも、懸命に救援・支援活動にあたった隊員の皆さんの様子が伝わってきました。さらに、避難所で生活を送られている方々からの要望で、隊員が沖縄から持参した三線で沖縄民謡を披露したり子供たちに教えたりすることもあったそうで、東の間でも避難所の方々に沖縄の島唄で喜んでいただけたのではないかと話しておられました。

さらに、自衛隊の運用について、初の試みとなった統合任務部隊の編成や米軍を始めとする外国軍との連携についても言及。今回の東日本大震災では、発生から3日後の14日に災害統合任務部隊が編成され、一人の指揮官のもとで陸海空自衛隊の統合運用が開始されることになり、円滑な支援・救援活動に繋がったと指摘しました。また、外国軍との連携については、沖縄で編成された陸自第15旅団第1次生活支援派遣隊が、米軍嘉手納飛行場からオーストラリア軍用機で米軍横田基地へ到着した後、陸路で宮城県入りした事例を紹介しました。



現地での自治体と自衛隊との連携に関するフロアからの質問に対し、被災地では自治体や避難所でほぼ毎日のように自衛隊との話し合いの場が持たれたことで、自衛隊の能力と現地のニーズをうまく合致させることができたこと述べ、緊密な連携の重要性を示唆しました。また、在沖米軍との連携についての質問では、沖縄で大規模災害が発生した場合、自衛隊は全力を尽くして支援・救援活動にあたるが、沖縄の島嶼性や自衛隊基地の被災の可能性、高台にある米軍基地が被災を免れる可能性などを考慮すると、沖縄に駐屯する自衛隊と在沖米軍との連携も災害対処における有効な手段ではないかとの考えを示しました。

現地での自治体と自衛隊との連携に関するフロアからの質問に対し、被災地では自治体や避難所でほぼ毎日のように自衛隊との話し合いの場が持たれたことで、自衛隊の能力と現地のニーズをうまく合致させることができたこと述べ、緊密な連携の重要性を示唆しました。また、在沖米軍との連携についての質問では、沖縄で大規模災害が発生した場合、自衛隊は全力を尽くして支援・救援活動にあたるが、沖縄の島嶼性や自衛隊基地の被災の可能性、高台にある米軍基地が被災を免れる可能性などを考慮すると、沖縄に駐屯する自衛隊と在沖米軍との連携も災害対処における有効な手段ではないかとの考えを示しました。

防災に関する個人レベルでの備えについてもお話がありました。ここで、少しご紹介いたします。

【地震発生時】

- 地震が起きたら、まず頭を保護するために机の下などに隠れる。厚みのある鞆などで頭を守るのも有効。
- 津波発生が予想される場合は、遠い所ではなくとにかく高いところ（鉄筋コンクリート5階建以上の建物など）に逃げる。

【家庭での日頃の備え】

- ヘッドライトと3日以上非常用食料と飲料水。ヘッドライトは、懐中電灯に比べ、手がふさがらないという利点がある（例えば子どもを抱え、荷物を持って逃げる場合を想定）。